

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2770105464
法人名	アンドライフサービス株式会社
事業所名	グループホーム 北花田
訪問調査日	平成 20 年 10 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770105464
法人名	アンドライフサービス株式会社
事業所名	グループホーム 北花田
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119番地 (電話) 072-255-1991

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月4日

## 【情報提供票より】(平成20年7月21日)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 21 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 階	~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有( 円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(7月21日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	10 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上クリニック・浅香山病院・新金岡豊川総合病院・大瀧歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会に奉仕したい、地域に貢献したい、自分も利用したいと思えるホームを創りたいとの願いでスタートして、現在5年を経過しているが、着実に成果を積み上げている。今や、単に地域にとって利用できる社会資源にとどまらず、地域の側から受けることで生かされる地域の社会資源と言えるまで、コミュニティーの一角となっている。職員は全員が正職員であり、余裕をもって利用者に向き合う生活が営まれている。運営者の志の高さは、職員一人ひとりに浸透しており、働きがいのある職場づくりに波及し、それはまた、トイレ・流し台などが完備された居室、ゆったりとした居間などのハード面とも同調し、利用者のあふれた笑顔に現れている。ホームページで事業所の財務状況資料を公開し、事業運営の透明性を確保している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①家族などへの現金出納の報告は、細かく金銭出納帳に付けて行ってきたが、報告ごとに家族の確認印を得るよう改善を加えて実施している。②提案としての2階畳敷き居間の段差解消に関しては、手すりの取り付けや高低差を縮小する踏み台の設置を検討してみたが、段差は認識しやすい高さでもあり、注意深い見守りで対応することで進めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	① 前は各ユニットリーダーが中心となり、職員は掲示物を通して評価に参加する形であったが、今回は全職員が自己評価表に書き入れる取り組みを行った。その結果として、評価に携わる職員の多くの気づきを生み出している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業者からは、利用者の状況、実施行事・予定行事の内容、収支報告、食品問題対応、職員研修内容などが報告され、家族からは、利用者の表情・体調の変化や家族の満足などが話し出されている。地域代表・地域包括支援センター職員からは、非常災害時の近隣との協力、社会教育訓練の情報提供、在宅支援センターの役割の紹介などがなされ、事業運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、意見・苦情などを取り入れるようにしている。家族の訪問時は大切な機会としてとらえ、職員に希望を伝えたり、何でも相談できる雰囲気づくりに気を付け、気がかりなことや意見、要望は丁寧に聞くように心している。また運営推進会議での意見には即応するようにしているが、苦情として上がってくるケースはほとんどない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、盆踊り・ふとん太鼓などの各種の行事への参加、地域子供会との仮装パーティ交流、またホーム開催の夕涼みへのお誘いなどが行われている。地域ボランティアによる毎月のいきいき歌体操などの他、特に恒例となっている豆の木保育園児が訪問する誕生会やプレ運動会への招待参加での交流は頻繁で、お互いに待ち遠しい大切な活動になっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の在宅高齢者および高齢者家族を支援する考え・願いを、「＝安心家族＝地域と融和を図り、『利用者さんに喜んでいただけるサービスの提供』と、独自の運営理念に構築して掲げている。地域の一員となり、支え・支えられる関係の中で、利用者のさらに豊かで当たり前の暮らしを具現化しようと表明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「何を大切にして利用者の生活を支えようとするのか」の原点を、共に日常において心に刻むよう、玄関・各フロアに掲示している。職員ミーティング、申し送り時において、管理者は意識して話し合い、業務の中で理解を深め、生かすよう具体的に動いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りなどへの参加、ホーム主催の夕涼み会へのお誘い、子供会のハロウィン訪問などが行われている。生き生き歌体操ボランティアグループの受け入れ、保育園児との利用者誕生会でのプレゼント交換・季節ごとの野菜の収穫などで交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員は各項目ごとに記述し、職員ミーティングで検討している。自分の担当している業務を再確認する中で、職員によって異なる業務内容をとらえる視点・自己評価項目に対する理解度などに直面し、そのことを通して新たな気付き、課題意識が生まれてきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者からは利用状況、行事などでの暮らしぶり、収支状況などが報告されている。家族代表からは、医療対応面での安心・精神的安定・柔らかくなった表情などの話が出されている。地域代表・地域包括支援センター職員からの非常災害時の協力体制、研修会などの情報提供がなされ、運営に供すようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北区の「高齢者あんしんネットワーク会議」などの情報は、併設の居宅介護支援事業所を通じて聞き取り、また事故報告などでアドバイスを受けている。運営推進会議で助言を得たりしているが、頻度が多いとは言えず、十分な連携までには至っていない。	○	より良い運営のあり方を求めるためには、市・区担当者の理解や地域情報の入手などの必要なことが多い。市や区へ相談や報告、さらには諸会議などへの参加、介護相談員の受け入れなどと、発信・受信の機会を増やすことによって連携を深め、さらなる向上を志向することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラー版のひまわり通信を毎月発行し、日常の暮らしぶりを記載している。現金出納の状況は出納帳で報告し、家族の確認印を得ている。担当者からの各利用者ごとの様子(体重・健康面・生活面・連絡事項)を書き込んだ音信を付け加え、行き届いた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や訪問時には何でも話し合えるような雰囲気づくり・関係づくりに努め、ニーズ・意見・要望を聞き取るよう心がけている。相談・苦情受付書は、要望項目を付け、回答・改善・調査・弁償・話などに分けし、改善活動を通して、利用者からの信頼の獲得や職員の問題解決能力を高めることに生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が正職員であり、余裕ある勤務体制が敷かれ、働きやすい職場環境になっている。運営者・管理者の職員に対する強い信頼感、ビジョンの明確さが、より良いサービスに発展させていこうとのモチベーションを増幅させている。離職者はほとんどいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に応じた外部研修、日常の介護に関する内部研修を計画的に実施している。介護は人が人に直接サービスを提供するものであり、利用者が何を求めているかを知る職員の見る目、聴く耳、気付き方の磨きは、OJTを重要視した中で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催の北区グループホーム管理者会議に出席し、現状報告、情報交換(職員労務、外部評価、介護行政の動向)や課題について話し合い、時には包括支援センターより講師を依頼している。内容は職員ミーティングに持ち帰り、話し合うなどと、前向きな取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共同生活に対応できるか、気に入っていただけるかお互いに確認できる体験入所を実施している。利用者の意思を尊重しながら、不安を聞く、見守る、行動を制限しないなどと配慮して、徐々に生活上のつまづきを軽減するように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	孤独、ストレスなどで混乱を覚えがちな利用者には、まず寄り添い、表情を見ながら声かけをし、気持ちがそれ以上落ち込まないように意を用いている。職員が利用者にとって「いつも一緒にいる人」になることによって、安心と安定感が生まれ、理解されたと感じた利用者からは本音が聞かれ、その個性や経験、また生き方などで教えられることが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との共感が醸成され、利用者一人ひとりが自分で決めたり、「何をしましょうか、服はどちらにしますか」と聞く中で、利用者が希望を表すことを大切にしている。把握が困難であったり、不確かな場合は、家族に聞き、その方らしい生活をサポートする場合もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、アセスメントによる情報や意見を取り入れ、介護計画が実情に適しているかどうかの評価を行い、利用者本位のケアプランを作るようにしている。日頃の家族の気付き、意向も踏まえ、計画作成担当者は利用者の心身の状態の改善に資している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の関わりの中で利用者の状況を把握しており、各担当者が作成する「モニタリング総括表」を、計画の見直しの判断基礎資料としている。3か月に一度の見直しを原則にしているが、特に病院などからの退院時で状態が変化した際には随時、担当医・家族と話し合い、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院などの外出は、その時々々の要望に応じて、職員が臨機応変に支援している。「利用者は選挙その他一般市民としての行為を行える」と、その権利を明示して、継続的に支援するように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、自由な選択に基づき、利用前からのかかりつけ医において継続した医療受診ができるように支援している。家族の希望を聞き取り、訪問診療(月2回)、訪問歯科(毎週水曜日)の支援を行っている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点で看取りまで支援した実績はない。今後検討はするが、当面実施する方向にはない。重度化などでの支援は、日常の支援の延長上にあるもので、その時だけのことではなく、事業所としての対応方針の統一、利用者・家族との意思確認の記録などの整備が十分に整っているとは言えない。	○	利用者や家族が安心して生活が送れるよう、利用者の病状が悪化した場合や緊急時の適切な対応として、事業所としての「出来ること・出来ないこと(医療行為)」を明確にした対応方針を策定すること、さらには、本人・家族の意向をよく確かめておく際に取り交わした内容は記録として文章化し、共有化しておくことが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライドを損なわないよう、トイレ誘導時などでのさりげない言葉かけ、また申し送り時の職員間での利用者に関する話題では、イニシャル名で行うなどと気を付けている。利用者の各種記録は慎重に取り扱い、施錠するなどして保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の役割や自立への意欲を失いがちな利用者、自宅では行えなかった行動も、ホームでは積極的に参加するように促している。調理・折り紙・塗り絵・買物などと、本人が心地よい状態になれることを暮らしの中に取り入れるよう心遣いをしていく。利用者同志の関係も気配りされた環境の中で、一人ひとりの人生の一コマを大切に作る姿勢が全体に流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材、料理は委託業者から調達し、惣菜・汁物を付け加えるなどで工夫している。土曜日は、希望の食財を買出し、調理している。時には外食もある。利用者には負担にならない範囲で手伝ってもらっている。刻み食や分割食などで個々に応じた支えもなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は車椅子も入れる位ゆったりと広い。原則として毎日の午後入浴ができる。人により夕食後の入浴もでき、利用者の希望・タイミングに合わせてくつろげるよう支援している。進んで入浴しつづけない場合は、声掛けに工夫し、清潔保持に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園(水遣り、収穫)、歳時行事(餅つき大会、神社への初詣)、行楽地への出かけ、三味線・塗り絵・将棋など、日常の会話の中から忘れかけていることなどが引き出され、参加しやすい場面づくりも行われて、感謝の言葉が伝えられる生活が営まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が許す限り、ほぼ毎日の午後、公園・神社などへの散歩、スーパーでの日用品の買物などでその日を楽しんでいる。五感の刺激やストレスの発散となっているが、ホームに閉じこもりがちな利用者には、積極的に出かけるように声かけをし、マンツーマンで支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関は安全のため施錠しているが、各ユニット間は移動が自由になっている。職員の見守りの中で、階段を使用している利用者もいる。利用者が帰宅願望、閉塞感などを感じている様子を察した時は、それとなく声かけをして、一緒に外出するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施している。向かいの関連企業とは日頃連携をし、協力施設とは書面で協力関係を確認している。運営推進会議で災害時の近隣との協力体制について話題にしているが、地域全体での避難場所の確認などにおいて、具体化までには至っていない。	○	事業所職員だけの誘導の限界を踏まえ、前向きに地域推進会議で取上げ、日頃から自治会や近隣者と避難場所や自衛消防団との支援体制面などを話し合ったり、災害時の飲料水の備蓄、また協力医療機関との連絡方法や支援体制について定期的に確認することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取量、排泄の状態をチェックしている。夜間などはトイレ終了後に水分が補給できるよう気を配っている。日中は各フロアの食堂の場所に麦茶入りポットを置き、利用者はいつでも水分が補給できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間件食堂は広く、季節に合った折り紙、花見などの行事写真が飾られ、家庭的な雰囲気を漂わせている。利用者がお互いに距離をもって過ごせるソファは適度に配置されている。2階の談話室の畳敷きは、心落ち着ける場となっている。玄関周りや中庭などには季節の花が咲き溢れ、気持ちを和らげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階・3階は洋室タイプ、2階は和室タイプになっており、トイレ、流し台などが完備されている。室内にはタンス、家族写真、テレビ、仏壇などの馴染みなものが備えられ、利用者のこれまでの生活習慣や経歴を感じさせるとともに、安心して和める居場所であることを伺わせる。		